



市民病院外来待合いホール

# みんなを支える

## 地域医療

### ～ 市民病院の役割 ～

医療の機能分担や専門化などが進む中で、市民の皆さんが地域で継続性のある適切な医療を受けるためには、医療機関はもとより利用する方もお互いにそれぞれの立場を理解し合うなど、みんなで地域医療を支えていくことが大切であり、なかでも市民病院の果たす役割は、より重要となっています。

☎ 市民病院管理課企画経理室 ☎ 43-2511 (代表)



### 市民病院の歩み

市民病院は、昭和22年に8町村で協立袋井病院として開設され、昭和29年には、7町村により共立病院となり、昭和46年に袋井市立袋井市民病院と改称されました。

昭和54年に、現在の袋井市久能へ移転し、以来、地域の皆さんの生命と健康を守る医療の中心的な役割を担ってきました。

この間、心臓血管撮影装置、CT（人体を色々な角度でX線をあて、コンピューターで再構築して画像にする撮影装置）、MRI（X線、造影剤を使わずに磁気から画像を得て、安全かつ高精度に体内を撮影する装置）などの高度医療機器の導入、医療スタッフの充実、病床の拡充など、常に慈愛の精神をもって、愛され信頼される病院づくりに努めています。

平成9年には、(財)日本医療機能評価機構による「質の高い病院」として認定されるとともに、平成11年には、自治大臣から「地域に

密着した医療を行い、経営状況も良い病院」として、優良病院の表彰を受けました。



### 医療を取り巻く現状

今日、医療を取り巻く環境は、少子高齢化や疾病構造の変化、さらには医療技術の進歩などにより大きく変化してきています。

また、病院に対する患者様のニーズも多様化するとともに、大幅な診療報酬の改定による影響や医師不足など、新たな課題も浮上ってきています。

中でも、医師不足と医師の偏在は、全国的な問題となっており、診療科の閉鎖を余儀なくされるケースが出るなど社会問題化してきています。

当市民病院においても、こうした事態を防ぐため、市長や病院長が中心となって医師確保に努めています。

また、院内に医師確保に向けてのプロジェクトチームも設置し、積極的に取り組んでいます。

こうした医師不足の原因としては、次のようなことが考えられます。

新医師臨床研修制度により、2年間の臨床研修が必修化されたことに伴い、大学病院で研修す

る医師が少なくなり、各病院に派遣している医師を呼び戻すなど、大病院の医師数を確保している。

特に若い医師には、臨床例の多い大きい病院での勤務志向があるとともに、子どもの教育問題を抱える医師が、都会の病院への勤務を希望している。

小児科や産婦人科など、多忙でリスクの大きい診療科を希望する医師が減少するとともに、入院設備を持たない開業医を志望する医師が増えている。



### かかりつけ医との連携

市民病院では、市民の皆さんに「かかりつけ医」を持ってもらうこ

とを勧めています。

かかりつけ医は、市民の皆さんの日常的な保健・医療サービスを提供できる地域医療の基本を担っており、市民病院と互いに連携する中で、診療にあたっています。

#### かかりつけ医を持つ利点

患者様の生活習慣や健康状態を把握しているため、体調の変化を早期に発見してもらえます。

受診しやすく、急病の時や病状の変化をすぐみてもらえます。

診察だけでなく日ごろから健康管理全般について気軽に相談できる。

